

みなみきど
南木戸遺跡

所在地 一宮市萩原町河田方南木戸
調査理由 愛知県水道用水供給事業
調査期間 平成15年4～5月
調査面積 195㎡
担当者 石黒立人・樋上 昇・早野浩二



調査地点 (1/2.5万「一宮」)

調査の経過 本遺跡は愛知県水道用水供給事業にともなう事前調査として、愛知県企業庁ならびに尾張水道事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年4月から5月にかけて実施した。調査面積は195㎡である。

立地と環境 南木戸遺跡は一宮市西部の日光川左岸の微高地上に立地し、標高は現地表面で約5mを測る。

調査の概要 昭和37年には名神高速道路の建設にともない、名鉄尾西線と交叉する地点の東約110～120mにある河田方高架橋の敷設工事において、古墳前期に属する多量の土器・木製品が出土し、一宮市教育委員会が遺物の採取を行った。

今回の調査では、名神高速道路南側の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査として、幅2m、全長65mの調査区を設定した。その結果、東西幅がおよそ40mほどの微高地を確認し、廻間I～II式期に属する竪穴住居・溝・土坑を検出した。
(樋上 昇)



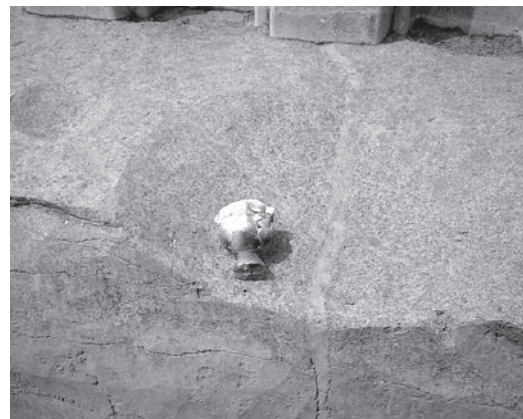
調査区全景 (東から)



調査区東半部 (東から)



S B 03 全景 (東から)



S K 182 土器出土状況